



地域と医療のコラボレーション

ハーモニー

Harmony ♪

第19号

2010 / September

発行 / 医療法人社団協友会 東大宮総合病院

編集 / 広報委員会

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮 5-18

TEL 048-684-7111 FAX 048-686-3614

<http://www.higashiomiya.or.jp/>

特集

緩和ケア認定看護師誕生

医療連携支援課 がん相談支援室 佐山 順子

「緩和ケア」と聞いてどのようなイメージを持たれますか？

「終末期の人が受けるケア」「先が見えない」など、マイナスのイメージを持たれる方が多くを占めると思っています。しかし、近年WHOでは、緩和ケアを疾病の早期から開始するものと定義づけ、当院の緩和ケアチームも終末期に限らず、なるべく早期から、患者様・ご家族に対し関わることをモットーにしています。緩和ケアは、決して終末期の方だけが受けるものでもありませんし、患者様はみな限られた時間を懸命に生き抜いています。その姿から、多くのことを学び、たくさんさんの感動や勇気・優しさを頂いています。緩和ケアに携わり気づいたことは、緩和ケアは一方的な関わりではなく、相互に響きあう関係であり、それは看護そのものである、ということでした。

当院では、20

08年よりがん診療に力を入れていくことを目標にかかげ、緩和ケアチームやがん相談支援室を立ち上げ、稼動しています。皆様のご協力によ

り、緩和ケアチームでは月平均10人、がん相談支援室では月平均50件の相談に応じています。がん相談の拠点となる面談室ですが、この度、リニューアルしました。落ち着いて話ができる雰囲気を目指し、オレンジを基調とし、座り心地のよい椅子を設置しました。

そして、私は質の高いケアの提供のため認定看護師を目指し、今年、日本看護協会認定緩和ケア認定看護師として審査に合格することができました。資格は取得して終わりではなく、実践を通して多くの患者様、スタッフの皆さんに還元できてはじめて意味を成すものだと思います。認定看護師の役割は、「実践・教育指導・コンサルテーション」が3本柱です。そのことを常に念頭に置き、日々自己研鑽を重ねていきますので、今後ともよろしく願います。



診療科だより

リウマチ・膠原病科

日本リウマチ学会教育施設



リウマチ・膠原病科
部長 高木 賢治

リウマチ・膠原病科はリウマチ性疾患に対して最新の医療を提供することを目標としています。対象疾患としては、関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、全身性硬化症（強皮症）、皮膚筋炎／多発性筋炎、混合性結合組織病、シェーグレン症候群、リウマチ性多発筋痛症、血管炎症候群等です。

◇リウマチ・膠原病科 担当医表

| | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|----|----|----|---|----|----|
| 午前 | 高木 | 高木 | | | 高木 | 高木 |
| 午後 | | | 松岡 | | | |

関節リウマチとは

関節リウマチは全世界人口の0.7%に認められ、30～50歳代に好発し、女性に多い慢性進行性の疾患です。主症状としては、関節炎が通常手指の小関節から生じ、次第に多発性対称性の持続関節炎となるのが特徴です。また、関節外症状といわれる臓器病変や疾患に関連した合併症をきたすことがよくあります。

関節リウマチの症状

- 全身にあらわれる炎症性の病気
発熱、体重減少、疲労感、貧血
- 多発性関節炎
左右同じ関節で骨びらんを伴う
- 朝のこわばり
- 関節外にあらわれる症状
リウマトイド結節、肺線維症、漿膜炎、血管炎、眼病変

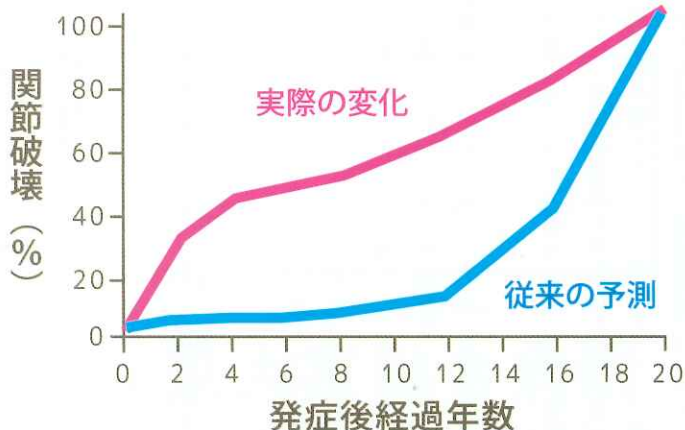
関節リウマチの診断

まず、血液検査にてリウマチ因子、赤沈、CRP等の炎症反応、検査所見等に加えて腫脹及び疼痛関節数で診断します。近年では早期発症例には関節X線だけではなく、MRI、エコー等が有用とされつつあります。

薬物療法について

薬物療法としては非ステロイド性抗炎症薬、副腎皮質ステロイド、抗リウマチ薬、生物学的製剤が基本となっています。とりわけ前述の2剤はあくまでも対症療法として使われるもので、この疾患を良くする意味で後者の2剤は重要になっています。

早期から進行する関節破壊



特に発症して2年以内に関節破壊が進行するため早期からの抗リウマチ薬及び生物学的製剤の導入が望まれます。当科では抗リウマチ薬、生物学的製剤のいずれも使用可能でコントロール不良例、合併症のある症例への対応も十分可能です。セカンドオピニオン等を含めた後相談も、お受け致します。

関節リウマチの治療薬

- 非ステロイド性抗炎症薬 (NSAIDs)
- ステロイド薬
- 抗リウマチ薬 (DMARDs)
- 生物学的製剤

より良い病院を目指して

■□■ 救急外来の充実を目指して ■□■

当院は開業より28年間、救急指定病院として、近隣の患者様を中心とした救急医療を展開してまいりました。開院当初の救急外来を振り返ると、救急室としての役割はありましたが、その中に看護師は常駐していませんでした。夜間患者様が来られると、病棟看護師に連絡が入り、診察介助の対応をしていたのを思い出します。時代の変化とともに当院の役割も変化し、現在は一般急性期病院として病院運営を行っております。

今年度の病院目標として「救急体制の強化」を掲げました。当直医師を4月より2名体制にし、救急外来の診察スペースは拡大工事を行いました。

これまで重症の患者様も軽症の患者様も同じ診察室で診察をしなければならなかった問題は、診察専用ブースを2室確保することで解決し、これにより多くの救急患者様の受け入れがスムーズになりました。点滴処置等も救急外来で対応できるようになり、安全への配慮もできるようになりました。又、救急車で搬送患者様は扉1枚開けることで救急室へ直接入れられるようになりました。

今後は、ハード面の解決だけではなく、ソフト面の解決も必須と考えます。地域の皆様に信頼される医療の提供に向け、進化したいと考えています。



■□■ 紹介患者様専用カウンターの新設 ■□■



7月より紹介患者様専用の受付カウンターを新設しました。これまで一般の外来受診患者様と同じ窓口での受付をしていましたが、紹介患者様専用の受付をすることにより、スムーズなご案内が可能となりました。他の医療機関からの紹介状や当院での検査依頼票をお持ちの方は、こちらの紹介患者様専用カウンターへお越しください。その他、各種相談の受付も行ってまいります。

医療相談

医療費等の経済的な不安、社会福祉制度や介護保険などのご相談に対応します。

栄養相談

食生活や食事改善など、管理栄養士が様々な栄養相談に対応します。

がん相談

「もしかしたら私はガンじゃないか？」というような初期の段階から、ガンの病気や症状・治療についての不安、さらに闘病中の治療費のことなど、多岐にわたる悩みに対し、専門家が丁寧にご相談をお受けいたします。

セカンドオピニオン

ご自分の病気や治療に対して、他の医師の意見を参考にし、患者様にとって良い治療方法が選択できるシステムです。当院では一部の疾患以外のセカンドオピニオンは、一般外来での対応になりますが、ゆっくりと時間をかけて丁寧にご説明いたします。

10月は乳がん強化月間です



みなさん、J.M.S プログラムという言葉をご存知でしょうか？

「ジャパン・マンモグラフィーサンデー」の略で、J・POSH(日本乳がんピンクリボン運動) というNPO法人が全国の医療機関に呼びかけた、日曜日に全国どこでもマンモグラフィー検査が受診できる環境作りへの取り組みのことで、

当院はこのプロジェクトに協賛しており、今年度はJ.M.S が10月17日の日曜日に決定しました。

■ 1年間に4万人

乳がんは女性のがんでは最も罹患率が高く、しかも40歳代をピークとする比較的若い層に多いという特異な年齢分布を示す疾患です。死亡率も増加しています。

「どうして私が・・・」これはがんと診断された患者さんが最初に思う偽らざる気持ちだと思います。しかし、比較的乳がんは優れた検査方法や有効な治療手段が多いことから、

早期に発見して適切な治療を受ければ、ほぼ完全に治すことができるといわれています。

わが国で乳がんと診断される女性は1年間に4万人にのぼっています。

最近是这样な情報が比較的簡単に手に入ることは思いますが、具体的にどのような予防法があるのか、どのような検査があるのか、どのような手術や治療があるのか、東大宮総合病院スタッフと患者様が気軽に十分なコミュニケーションを図れる関係作りをしていきたいと考えています。

■ 地域と病院の架け橋

女性にとってかけがえのない乳房をなるべく残したい。また手術後の生活の質を維持したい。そのためには早期発見がとても大切なことです。無症状(しこりが触れない)の乳がんも画像として描出できるマンモグラフィー検査が高い受診率で実現されることにより、診療の対象となる乳腺疾患は大きく様相を変えることとなります。いわゆる非浸潤癌が診療の対象として多くを占めるようになり、診断から治療まで画像に頼る時代を迎え、それに負けない画像精度が求められるようになります。

乳がんになりやすいプロフィール

- 40～50歳代の女性
- 早い初潮(11歳以下) または遅い閉経(55歳以上)
- 高身長
- 母親、姉妹、おばが乳がん
- 未産または高齢初産
- 肥満

我々医療従事者も身の引き締まる思いです。

これら画像診断は乳がんの診療の質を高めることを通じて、患者様の救命のみならず、生活の質の低下を最小限にすることに貢献し、また地域社会につながっていくと思います。

完全予約制です

10月17日の日曜日

に当院でマンモグラフィー検査が受けられます。

検査料金：4,620円(税込)

お申込みはこちらまで

東大宮総合病院 健康管理課

TEL 048-684-2278

※おかけ間違いのないようご注意ください

当院の

数字アラカルト

| | |
|-------------|----------|
| 外来患者数 | 703.3人/日 |
| 入院患者数 | 265.5人/日 |
| 在院日数 | 17.1日 |
| ベッド稼働率 | 84.0% |
| 救急件数 | 287.0件/月 |
| 手術件数(全麻・腰麻) | 89.2件/月 |
| 心臓カテーテル検査件数 | 34.4件/月 |
| 内視鏡件数 | 366.4件/月 |

平成22年 4～8月平均

編集後記

8月初旬の日本医療機能評価受審に向け、職員一丸となって医療サービスの質の向上のために様々な努力と改善を行ってきました。そして無事に受審を終えることができました。

今後も更なる向上を心がけ、皆様に質の高い医療の提供ができるよう努力していきたいと思っております。

医療法人社団協友会

東大宮総合病院

〒337-0051 さいたま市見沼区東大宮 5-18

TEL 048-684-7111 FAX 048-686-3614



JR宇都宮線「東大宮」駅下車
東口より徒歩3分